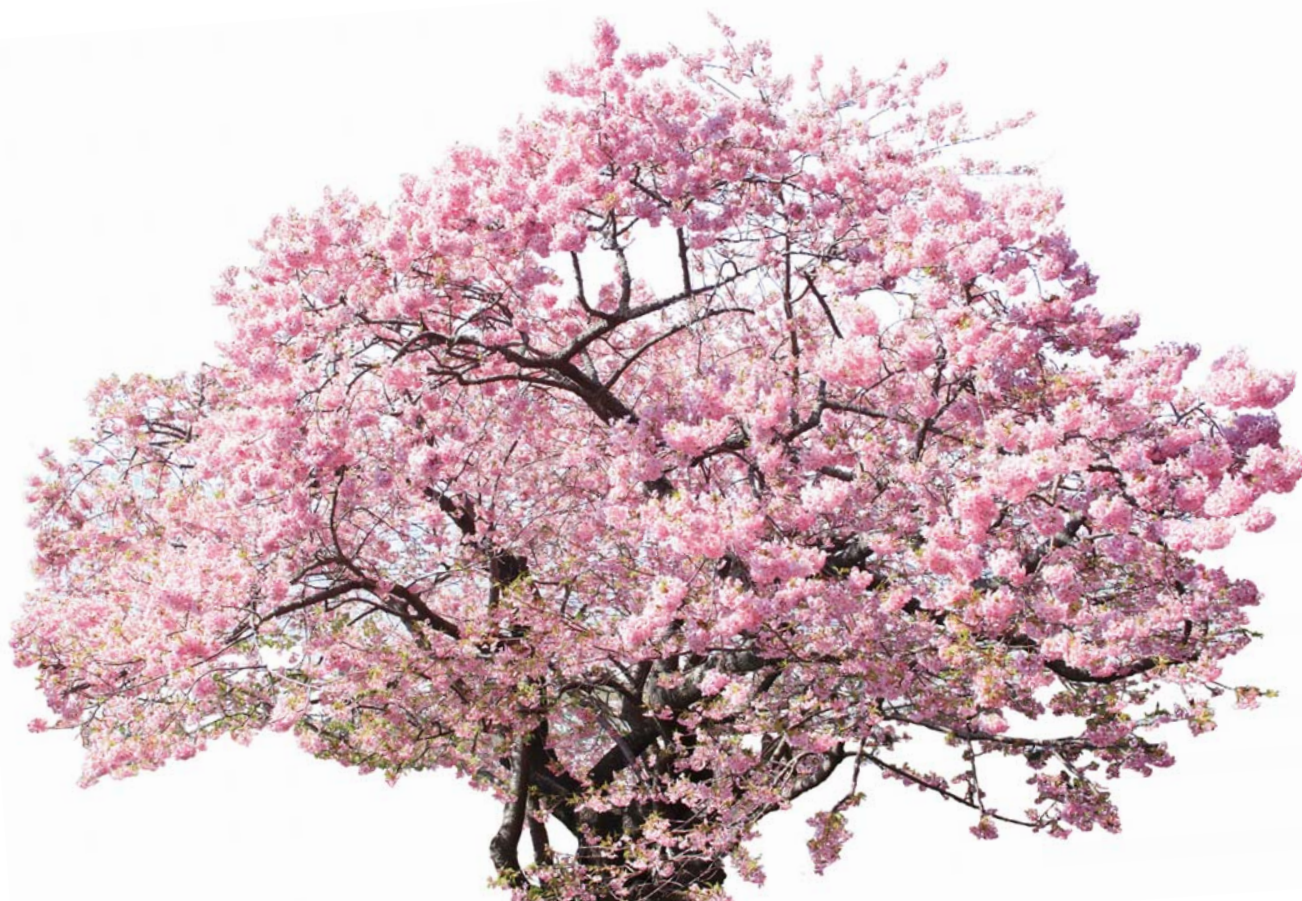




河津町勢要覧

2018

KAWAZU TOWN PROFILE



人と地域、 みんなの想いでつくる、 河津の未来。



自然

産業



歴史・文化



暮らし

先人たちが築き上げてきた河津町も60年という歳月の中で幾多の困難を乗り越え、今日を迎えることは大きな喜びであります。

私たちに「河津桜」というブランドと、町民の努力によって、たった1本の木から大きなまつりに育て、そして町民の心の支えや誇りとして育てた実績があります。小さい町でも、町民の力を合わせることで大きな力に変えることができるのだと、これからは町民の皆さんと自信を持って、さらに羽ばたいていく節目にしたいと思います。

この町勢要覧をご覧いただき、これまでの歴史を引き継ぎ、どのような未来を築いていくか、考えてもらえる機会となればありがたいと思います。



平成30年9月
河津町長 岸 重宏

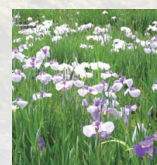
Contents/目次

- 2 人と地域、みんなの想いでつくる、河津の未来。
〔町長あいさつ／目次〕
- 4 未来に向けて、みんなで育む河津力
〔①自然 ②産業 ③歴史・文化 ④暮らし〕
- 12 魅力いっぱい! 自慢のスポット
- 14 河津の文化財・祭り・伝統
- 16 河津町60年の歩み〔年表〕
- 20 みんなが輝く河津のまちづくり
- 20 〔健康〕
- 22 〔教育〕
- 24 〔産業〕
- 28 〔生活〕
- 30 行政と議会
- 31 KAWAZU DATA 2018〔資料編〕
- 39 姉妹都市・防災協定



町の木 河津桜

寒緋桜と早咲き大島桜の自然交配種といわれ、特徴は開花時期が早く1月下旬からつぼみがほころび始め、3月上旬まで淡いピンク色の花を咲かせます。この原木が、町内田中にあることから昭和50年4月に町の木に指定されました。



町の花 花菖蒲

5月末から6月にかけて咲く花を5月の節句に開花させたいと房州の阿部市右衛門氏が河津の温泉を利用して栽培したのがはじまり。今では河津の特産品として人気があります。



町章

「川」と「つ」の字の組み合わせで、町の中心を河津川が貫流し、太平洋にそそぐことを意味しています。月と白と翼で白進月歩の発展を表し、丸は柑橘をはじめとする産業と人の和、図案全体は変形の温泉で観光地を表しています。



▲精力的に活動する「河津桜守人の会」の土屋達雄会長。



▲公園管理の業務を長く務めていた副会長の森田光衛さん。



▲植木職人としての経験が豊富な守人の鈴木藤五郎さん。



◀桜の木1本1本にエリアと番号がふってある。

木が元気になっていく姿を見るのが何よりの喜び

河津桜は植樹から50年以上が経つものもあり、樹勢の衰えなどが心配されています。また河川管理上、堤防への植樹は制限されており、桜を残し続けるには今の木の状態を維持していくことが最優先なのです。

毎月第3水曜の活動日、守人の皆さんが桜の木に登り、真剣な顔で剪定作業に汗を流す姿が見られます。

会員として精力的に活動する鈴木藤五郎さんは「桜の木は手入れをしてやれば、元氣

その上で、1本1本に対して必要な剪定を実施。支障枝の枝打ちや肥料を施したり、つるなども除去します。守人の会を中心に、「かわづ花の会」や「河津桜守人サポーター」、「かわづふるさと案内人」の人たちと力を合わせて、合同の剪定作業も行いました。町ぐるみで力を合わせ、河津桜を守るための活動に力を入れています。

なる。しっかりと手入れをして、肥料をやったりすれば葉の色も良くなるのが分かるんです。そんな木を見るのはうれしいですね」と笑顔を見せます。

また、守人の会副会長の森田光衛さんは、「桜まつりにいらしたお客さんの中には、桜を見て、『去年より良くなったね』と声をかけてくれる方もおられます。そうやって毎年見に来ていただける方に喜んでもらえるよう頑張りたいですね」と話します。

土屋会長は、「河津桜の寿命は誰にも分かりません。桜の中には100年や200年以上生きた例だってあるんです。河津の桜も心を込めて丹念に手入れをすることで、何十年も寿命を伸ばせるはず。ずっと河津桜を楽しんでもらえるよう、これからも活動に力を注いでいきたいですね」と力強く語ってくれました。

河津のシンボルである河津桜をいつまでも残し続けるために、今日も1本1本の木を慈しみ、温かい目を注いでいる守人の皆さん。その思いは、河津の未来をこれからも明るく照らしてくれるはず。



▲目印となる「河津桜守人」のユニフォーム。



河津桜守人の会

■お問い合わせ：河津町産業振興課内
☎0558-34-1946

河津桜を見守り、適切に手入れしていく役割を担い、河津川沿いほか線路沿いの河津桜並木の定期点検を行っている。20代〜80代の17人で構成され、次世代の後継者づくりに力を入れている。

河津力 ①自然

未来に向けて、みんなで育む

まちのシンボルを永遠に。
「河津桜守人の会」の
想いが未来をつむぐ。



▲1枝ずつ丁寧な剪定を行う「河津桜守人の会」の皆さん。



河津川沿いの約850本の桜1本1本を丹念に手入れ

毎年2月上旬から咲き始め、町のあちこちを美しいピンク色で彩る「河津桜」。今や日本有数の早咲きの桜として知られるようになり、毎年2月10日から開催される「河津桜まつり」には、全国から多くの花見客が訪れます。

まさに河津を代表するシンボルとなった「河津桜」。この貴重なまちの資源を守るために欠かせないのが、「河津桜守人の会」の皆さんです。

「守人」育成のプランがスタートしたのは平成25年8月。河津桜保護育成計画策定委員会のプロジェクトが町によってつくられ、基本方針として、「町は河津桜を見守り、保護育成の担い手づくりに取り組む」という方針が決まりました。

町民から、河津桜を守るためのボランティア「守人」を募り、27年9月から講習や実習など10回におよぶ育成講座を実施。河津桜の特徴や病虫害対策、剪定方法などを学び、翌年3月、認定試験をパスした26人が、晴れて「守人」の称号を受けることになったのです。

「河津桜守人の会」の土屋達雄会長は、「みんな何とかして河津桜を守りたい、存続させたいと考えてスタートしました。全国の多くの方が、毎年河津の桜を楽しみにしています。その思いに応えるためにも、今の桜をどうしても長生きさせたいという気持ちでした」と話します。

26人の合格者の中から、17人の体制で「河津桜守人の会」の活動がスタート。まずは今の桜がどうなっているかという現状調査から始めることになりました。

河津川の堤防にある、約850本の桜すべてについて、1本ごとに木の状態を把握。いわば河津桜のカルテをつくる作業で支障枝や樹勢の劣化がないかといった調査を綿密に行っていたのです。



▲実生系のわさびは1年～1年半サイクルでの収穫となる。



▲わさび田は水の量を一定に保つ管理が不可欠。



▲区画ごとに時期をずらして育てることで、年間を通じて収穫できる。



▲天城の湧水で育まれる、風味豊かな河津のわさび。

河津のわさびの良さを 全国に広めたい

昔から受け継がれる仕事に、若い世代の感性を融合していく。そうやって新しい河津の産業が育まれていくのだと感じます。一方で、わさび作りで得られるやりがい、今も昔も変わらないようです。

「1年間、しっかりと手をかけて育てることとは時代を経ても変わりません。ゲリラ豪雨は怖いし、動物に荒らされることもあります。雨が多く降ると水の調整が欠かせません。いつも天気を気にしながら沢を見守っています」(山城さん)

「いいわさびができたときは、やっぱりうれしい。目が詰まって独特の香りがあり、食べたとき、辛さの中にほんのりと甘味が感じられるようなわさびはやっぱり美味しんですよ」(金指さん)

河津のわさびは主に種から栽培する「実生(みしょう)」の系統が栽培され、大きく育つことにも特徴があります。豊かな

次代を担う若手が取り組む 河津の新しい「わさび」作り。



▲左から、山城太助さん、金指正和さん、板垣祐太朗さん。

故郷への思いを胸に わさび作りの後継者に

古くから、わさびの名産地として知られる河津には、現在約50軒のわさび農家があります。河津は天城の名水に恵まれ、湧き水が山のいたるところで見られるように、美味しいわさびが育つ条件が整う格好の生産地なのです。

その河津のわさび作りの将来を担う、若手農家の皆さんにお話をうかがいました。「(東)わさび共販委員会」に属する、山城太助さん、金指正和さん、板垣祐太朗さんの3人で、ほかの2人の若手とともに同会の青年部を支えています。

それぞれ実家のわさび農家を継ぎ、山城さんと板垣さんが4代目、金指さんは2代目ということですが、中でも金指さんは東京の大学に進学し、教師を目指していたという経歴の持ち主です。

「最初は実家を継ぐ気はなかったのですが、在学中に母親が病気をして帰ってきて、わさび作りを少し手伝っていたんです。そのときに、このまま自分が継がなければ、わさび田を手離すことになる...と考へさせられました。そして、河津に戻ることに決めました」(金指さん)。その後、築地の青果市場で勉強を積み、故郷に帰ってきました。

河津のわさび農家も他の産地と同様に、後継者づくりに苦労しています。ただ、農家の数が減っている反面、わさびの生産量は変わっていないのは注目に値します。彼ら若手を中心として、生産効率を上げる努力を重ねているからです。

「ひとつの田で、どれだけのわさびが穫れるか、ということが大事です。今はメリクロンパイオといって、ひとつの苗から品質差のない苗をつくることのできる培養技術もあります。こうした新しい取り組みで、わさび作りの質や効率を上げていきたいと考えています」(板垣さん)



▲河津の山あい広がる「わさび田」。



(東)わさび共販委員会

■お問い合わせ：伊豆太陽農業協同組合 河津農産加工直売所

☎0558-36-8316

河津には約50軒のわさび農家があり、エリアごとに生産農家が集まって、わさび共販委員会を組織。(東)わさび共販委員会の青年部は現在5人で、研修や勉強会などを通じてわさびの栽培技術の研鑽を図っている。



▲南禅寺薬師如来坐像〔本尊〕(静岡県指定有形文化財)



▲南禅寺の境内には「天狗のとまった大椎」の木も。



▲展示館内にずらりと並ぶ貴重な仏像の数々。



▲天部立像〔左〕(静岡県指定有形文化財)



伊豆ならんだの里 河津平安の仏像展示館

■お問い合わせ: ☎0558-34-0115

<http://www.kawazuheian.sakura.ne.jp/>

平成25年2月に開館。
静岡県内最古の仏像で
ある薬師如来坐像をはじめ、
東海最古の地藏菩薩
像など、24体の平安仏を
展示する仏教美術の宝
庫。



▲「南禅寺」のお堂

河津の歴史文化が まちの未来を変える？

当初は、展示館の場所は高台にある南禅寺の隣ではなく、平地に建てた方がよいのではないかと、という声もあったそうです。「しかし仏像の由来を考えると、もともとお堂のあったこの場所に置くことに意味があると思いました。地元の方々からの声もあり、南禅寺の隣にこだわって展示館を造ることに決まったのです」と説明してくれました。

河津の歴史文化にこめられた思いを受け継ぎ、次の時代につなげていくための仏像展示館。設立後の5年間で2万人の来館者を数えたものの、まだまだ十分ではないと館長は言います。「展示館の存在を町の内外にもっと知ってもらふ必要があると思っています。最近では仏像を町の行事やイベントに持っていく、より多くの方に貴重な歴史遺産に

ふれてもらう取り組みも行っています」とPRにも工夫を凝らしています。実際、展示館には「おびんずるさま」と呼ばれ、頭や体をさわることで利益があるという僧形坐像があるなど、特徴的でユニークな仏像が多いのも特色のひとつです。そして板垣館長は、河津の仏像について、興味深い話を聞かせてくれました。「今ここにある仏像以外に、実は県内外に出て行ってしまっている仏像が数多くあり、河津がルーツになっているに違いない仏像が全国各地で見つかっているんです。その中には、たいへん珍しい仏像もあるんです。そう考えると、河津というまちに、むかし仏像が集まるような史実があったのかもしれない。そう考えるとワクワクしませんか？」

ひょっとして、日本の歴史を変えるようなミステリアスな事実が隠されているかもしれません。遠い昔の河津の歴史を紐解くことで、まちの未来を変えるような史実が見つかるとしたら、これほど胸躍ることはないといえるでしょう。

今に伝わる貴重な仏像文化を まちの活力につなげたい。



◀「伊豆ならんだの里 河津平安の仏像展示館」の板垣光彦館長



▲天部立像〔右〕(静岡県指定有形文化財)

貴重な歴史遺産を 守りたいという想い

河津は平安時代、華やかな仏教文化が花開いた土地でもありました。その中で最も古く、学術的・美術的に重要な仏像を多数伝えるのが、谷津の「南禅寺」です。このお寺には、古くから伝わる逸話があります。1432年に地震による山津波があり、お寺は崩壊してしまい、仏像も谷底に埋まってしまいました。それをまちの人々が掘り起こし、簡単なお堂を造って納めたのです。その後、室町時代の1541年、鎌倉からやって来た和尚が南禅寺として開き、正式なお堂を造って仏像を納めたといわれています。

南禅寺の本尊である薬師如来坐像は、平安時代前期に遡る、静岡県内最古の仏像です。時を経て今、これらの貴重な仏像を、より良い環境で保存していくべきという声が、地元から上がるようになりました。そして平成25年2月、南禅寺の隣に「伊豆ならんだの里 河津平安の仏像展示館」がオープン。県や町の指定文化財である仏像の数々を集め、広く一般公開しながら、ふさわしい状態で保存していく環境が整ったのです。

館長の板垣光彦さんは、「これらの貴重な歴史遺産を守らなければいけないという思いが強くなりました。当初は収蔵庫を作ればいいと思っていたのですが、それだと地元の経費負担が大変です。そこで、新たな観光資源として、県の観光施設整備事業の助成で展示館を整備し、広く一般の方々に見てもらうということになったのです」と展示館設立の経緯を振り返ります。平安時代の仏教美術を伝えるこれほどの仏像は、静岡県全体を見てもなかなかありません。もはや河津町にとどまらず、県全体の観光資源として活用すべき。そう考えた板垣館長らが中心となって働きかけ、展示館の設立にこぎつけたのです。



▲勉強がうまく進むようサポートすることも。



▲学年を超えた交流が生まれる貴重な場になっている。



▲みんなで次の一手を考えています。



保護者が労働などで昼間家庭にいない小学1～6年生までの児童を、授業終了から18時まで預かる学童保育施設。2～3人の支援員のもと、集団による遊びを通じた生活指導や事故防止などの安全指導を行っている。南小学校の体育館2階で実施、現在の定員は30人。

河津町放課後児童クラブ(学童保育)

■お問い合わせ: 河津町健康福祉課 福祉介護係

☎0558-34-1937



まちの未来を育むのは子どもたちの元気な成長

「そうした子どもたちに提供する『楽しみ方』には、河津の魅力を活かした方法が多くあるそうです。

「河津には自然がいっぱいありますから、夏は川で水遊びをしたり、カーネーション見本園や河津バガテル公園に出かけるなど、積極的に野外に出かける機会を設けてもらっています。河津ならではの四季を子どもたちに感じてもらいながら、まちの良さをたくさん知ってほしいと思うんです」

また「河津ふるさと案内人会」のボランティアの方が、河津に伝わる昔話を紙芝居にして読み聞かせてくれることもあるそうです。「地元の歴史や伝統を知って、自分たちのまちを誇りに思ってくれるとうれしいですね」と話してくれました。

そしてもちろん、まちの人たちの子どもたちを見守る温かいまなざしも、きっと河津ならではの良さでしょう。

「みんなで外に出かけると、『あら、来たの〜』

「楽しんでいってね〜」といった声をかけてもらえるんです。地域ぐるみで子どもたちを見守ってくれているので出かけていきやすいですし、そうした温かい気持ちに、子どもたちも触れていってほしいと思うんですよね」と長田さん。

「支援員としての仕事のやりがいはいま20点くらい。子どもたちは元気いっぱい、本当にかわいいです。大変なこともありますけど、みんなの笑顔を見たら吹っ飛びます(笑)。町の担当者の方からも、支援員を信頼していただいている気持ちが伝わるから、とても仕事がしやすいです。

要望ですか？今の学童保育の部屋を、もう少し広くしてほしいことでしょうか。そうすれば、もっとたくさんのお子どもたちに来てもらえるので」と笑顔を見せられました。

まちの未来を育むのは、言うまでもなく子どもたちの元気な成長です。支援員をはじめ、まちの人たちが一体となって、地域ぐるみで健やかな成長を見守る風土が河津にはあります。その力を、これからも大事に育てていきたいと思っています。



▲体育館の中のスペースも有効に活用。

**地域一体で
子どもたちの
健やかな
成長を
見守ります。**



▲河津町放課後児童クラブの子どもたち



◀同クラブ支援員の長田江美さん

**放課後から夕方まで
遊びや生活の場を提供**

授業が終わって放課後になると、南小学校の体育館の2階に設けられた部屋に、子どもたちが次々と元気な顔で入ってきます。河津町の小学生を対象に、放課後児童クラブ(学童保育)が行われているのです。

放課後児童クラブは、共働きなどで保護者が昼間家庭にいない児童に、放課後から夕方まで遊びや生活の場を提供する学童保育施設。土曜日や祝日、夏休みや冬休みなどの長期休業期間も含め、小学1年生から6年生までの約30人の子どもたちを預かっています。

同クラブの支援員を6年前から務めるのが長田江美さん。幼稚園教諭の免許をもつなど、もともと子どもが大好きだったことから町の臨時職員として応募。6人いる支援員の一人として日々子どもたちと接しています。

「ふだんは2～3人の支援員による見守り体制で、部屋で遊戯をしたり、体育館を使わせてもらうなど子どもたちを遊ばせています。小学校の先生方からは体育館もどどん使ってください」と言っていたなど、とても協力的なので助かっています」と笑顔を見せます。

学童保育では、5、6年生などの上級生が下級生の面倒を見るという関係性も生まれ、「先生、おれが勉強を見るよ」と支援員を助けてくれることも多々あるとのこと。「せっかく一緒に学童保育にいるのだから、学年関係なく、きょうだいみたいにみんなで一緒に楽しめるよう遊びも工夫しています。支援員それぞれが研修などで遊びやゲームを学んできて、平等にみんなができる遊び方で楽しんでいますね」と説明してくれました。



6,000本のバラが本格的フランス式庭園に咲き誇ります。

河津バガテル公園

パリ市にある「パリ・バガテル公園」の姉妹園として平成13年にオープン。1ヘクタールの広さに1,100品種、6,000本のバラが植栽されています。



峰温泉
大噴湯公園
100度の温泉が毎分600リットル高さ30mまで噴き上がる自噴泉。大正15年から90年以上、絶えることなく噴き上げ続けています。

公園 — PARK —

湯ヶ野温泉「福田家」

小説「伊豆の踊子」の舞台となった湯ヶ野温泉で、川端康成が泊まったことで知られる老舗旅館。CMやロケ地としても親しまれています。



歴史 — HISTORY —



段間遺跡
（だんまいせき）
東小学校校地およびその周辺に所在する遺跡。縄文時代の矢じりや石斧などの石器や耳飾りなどの装飾品、特に神津島産の黒曜石が多く出土。出土品は東小の展示室に展示されています。



河津桜の原木
河津町田中の飯田勝美氏が昭和30年頃、河津川沿いで芽吹いている桜の苗を見つけた。庭先に植えたのが河津桜原木です。その後、調査で新種と判明し、昭和49年に「カワツザクラ（河津桜）」と命名されました。町の天然記念物に指定されています。



大滝

落差30m、幅は7m。
河津七滝で最大の大きさを誇ります。

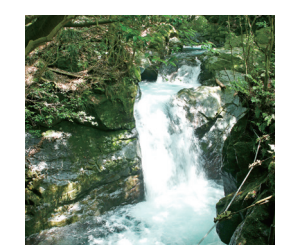
河津七滝

河津には数々の滝が存在し、中でも特に知られる7つの滝を「河津七滝」と呼んでいます。遊歩道も整備されており、ジオサイトとしても注目されています。



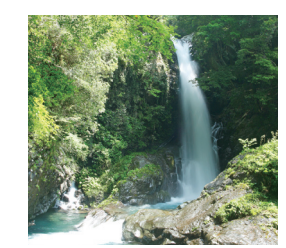
初景滝

「伊豆の踊り子」の像があり、記念撮影のポイントにも。



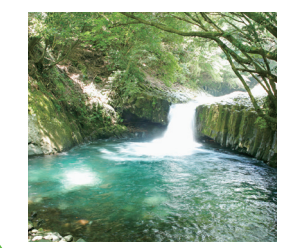
エビ滝

滝の流れがエビの尾びれに似ています。



釜滝

滝壺が釜の底を思わせます。



蛇滝

滝の周りの玄武岩が蛇のウロコに似ています。

自然 — NATURE —

2018年4月、ユネスコ世界ジオパークに河津町を含む伊豆半島15市町が認定
伊豆半島ジオパーク
地質学的価値のある景観が河津七滝周辺では豊富に見られます。「柱状節理」のある貴重な風景が滝のあちこちに広がっています。

その他、「カニ滝」「出合滝」があります。



河津川の鮎釣り

6月になると、河津川に鮎釣りの風景が広がります。



谷津漁港

定置網漁でサバやアジなど海の幸が豊富に獲れます。



今井浜海岸～舟戸の番屋

今井浜海岸に面した「絶景露天風呂」が楽しめます。

河津

魅力
いっぱい！
自慢のスポット

天城山系の豊かな自然が織りなす、河津のさまざまな景観。山・川・海の豊かな自然環境に包まれながら、四季折々の花々がまちのいたるところに咲き誇ります。加えて、河津ならではの歴史や文化の息吹を感じるスポットにも注目です。

祭り・伝統

河津桜まつり

2月上旬から咲き始める早咲きの桜に合わせ、毎年2月10日から3月10日まで「河津桜まつり」を開催。全国、海外からの多くの花見客でにぎわいます。



西小学校 梅採り

毎年6月に、西小学校で行われる初夏の恒例行事。児童が教職員や保護者、地域の人たちと一緒に梅林で梅を採る姿が伝統の風物詩となっています。

見高神社 三番叟

天平5年(733年)に創建された見高神社で、毎年10月23日の秋の大祭に伝統芸能として「三番叟」が上演されます。町無形文化財に指定されています。

大鍋・子守神社 神楽

安産・子宝の神様として知られる子守(ねのかみ)神社は、天正12年(1584年)の創建。秋祭りには、約300年の歴史があり、県無形文化財にも指定される「お神楽」が毎年10月15日に奉納されます。

「河津わさびで泣かせ隊」の泣けるグルメ!

新たに生まれる文化!

河津町の特産品として知られる「わさび」を使用した商品開発に取り組むのが、「河津わさびで泣かせ隊」です。平成25年10月に結成され、商工会員ほか行政関係者や鉄道機関に一般町民を交えた約25人で、河津の新たなグルメメニューの開発やPRに努めています。



河津鮎 泣きそば

河津を象徴する「わさび」と「鮎」の2つの食材を余すことなく使った中華和えそば。



河津泣きベそ餅

クルミとゴマ入りの甘味噌をたっぷり塗ってこんがり焼いた河津の五平餅。



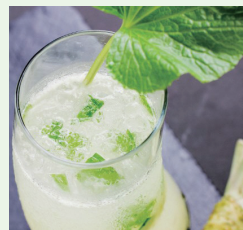
河津わさび香るロールケーキ

抹茶を使った和風の生地、河津わさびを使用したチーズクリームを巻き込んだロールケーキ。



あんバター わさこ

こぶし大の丸いパンにわさびを練りこんだバターと粒あんをサンドした一品。



▲長男: わさモヒート



▲二男: わさシェイク



▲三男: 泣き氷

わさ夏三兄弟

すっきりとしたさわやかな風味が涼を呼ぶ3つの味わい。

■お問い合わせ: 河津町商工会 ☎0558-34-0821



沢田涅槃堂

涅槃像群は、町有形文化財に指定され、堂内にある本尊釈迦如来涅槃像は、寝姿の仏像「涅槃仏」として安置されています。涅槃仏は桧の一木造りで漆箔が施され、他には阿弥陀三尊、背属像24体があります。



文化財

来宮神社 大楠

来宮神社の社殿に向かって左奥にあり、樹齢1,000年を超えると伝えられています。目通り周約14m、高さ約24mの巨木で、国指定天然記念物に指定されています。



天城山隧道 (旧天城トンネル)

川端康成の「伊豆の踊子」でも知られる、明治38年に開通した長さ445.5mの石造りのトンネル。国重要文化財にも指定され、伊豆の観光名所の一つにもなっています。

河津の文化財・祭り・伝統
受け継がれる伝統、そして新たに生まれる文化の数々...